

1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第145回(12/6)北畑 裕之先生推薦ブックガイド

※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

生命とは何か：物理的にみた生細胞

著者：シュレーディンガー著；岡小天，鎮目恭夫訳

出版：岩波書店，2008.5（岩波文庫，青(33)-946-1）

コメント：私の講演とは直接の関係はないですが、量子力学の創始者の一人として有名な物理学者、シュレーディンガーが生命について物理的に考察したものです。1944年の出版で、古くから生命は物理学の対象として興味をもたれていたことが伺えます。



Book2

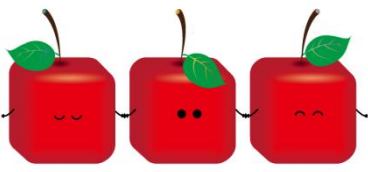
非平衡系の物理学

著者：太田隆夫著

出版：裳華房，2000.4

コメント：生き物を物理的に考えるうえでは、上に紹介したシュレーディンガーの書籍にも記述があるように、物理学で一般的に学ぶ平衡系ではなく、非平衡系という概念が重要になってきます。そのような非平衡系の物理学に関する基礎的な概念について、幅広く平易な説明をしているのが本書です。





※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book3

From cells to societies : models of complex coherent action

著者 : A.S. Mikhailov, V. Calenbuhr

出版 : Springer, c2006 : 2nd corrected printing
(Springer series in synergetics) (Springer complexity)

コメント : 生き物の運動の挙動について物理学の立場から議論をした書物です。アクティブマターの概念そのものが新しく、アクティブマターに関する書籍は英語のものも含めまだほとんど出版されていませんが、この書籍は、「アクティブマター」という概念が確立される前に生き物の運動や群れの挙動についての物理学的なアプローチについて著されています。

